社会福祉法人　暁会

あかつき だより

Akatsuki

第 71 回

2017 年 7 月発行号

特別養護老人ホーム フェニックス 開設 20 周年

私たち社会福祉法人暁会は、『地域の医療・福祉に貢献する』という法人理念のもと、平成９年４月１日、下関市の勝山・小野地区にて定員７０名の特別養護老人ホームの開所を皮切りに、変容する高齢者施策に対応し多様化する地域のニーズに応えてまいりました。

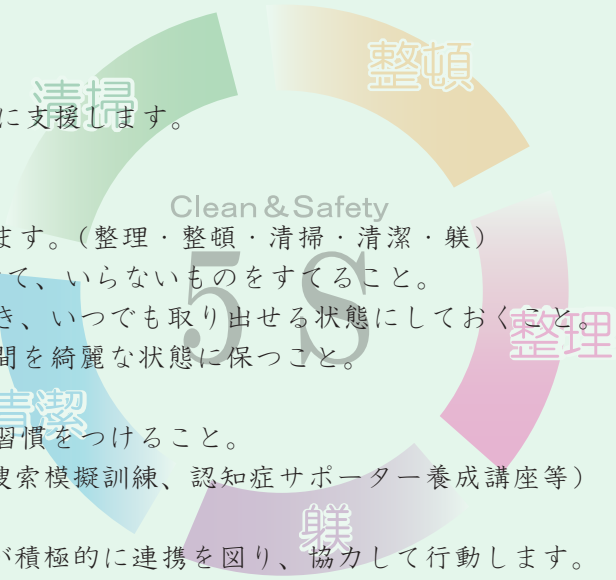
本号では、この春、２０周年を迎えた「特別養護老人ホームフェニックス」について紹介いたします。

目次

- 特養開設 20 周年　紹介 ・・・・ 表紙～ P3
- バ ス ハ イ ク ・・・・・・・・ P4（特別養護老人ホーム フェニックス）
- 菖 蒲 見 学 ・・・・・・・・ P5（フェニックスデイサービスセンター）
- 家 族 会 総 会 ・・・・・・・・ P6（特別養護老人ホーム フェニックスーの宮）
- お 田 植 え 祭 ・・・・・・・・ P6（児童デイサービスセンター フェニックス）
- 運 動 会 ・・・・・・・・ P7（障害者支援施設 フェニックス）
- ノビリティカフェ参加 ・・・・・・・・ P7（グループホーム フェニックスの里）
- 外 出 行 事 ・・・・・・・・ P8（生活介護事業所フェニックス）
- 生け花・お茶会 ・・・・・・・・ P8（宝の家）

生花
設けて行
入居者様
っきで熱
り組ま
。

1. 理念『信頼』・『チームの和』
2. 施設の運営方針
   ①利用者の尊厳・基本的人権を尊重します。
   ②利用者ひとりひとりがその人らしく暮らせるように支援します。
   ③安全・安心の福祉サービスを提供します。
   ④福祉人としての資質の向上に努めます。
   ⑤利用者の生活環境を改善する「5S 運動」を推進します。（整理・整頓・清掃・清潔・躾）
      ・「整理」:「いるもの」と「いらないもの」を分けて、いらないものをすてること。
      ・「整頓」: 決められたものを決められた場所に置き、いつでも取り出せる状態にしておくこと。
      ・「清掃」: 常に掃除をして職場・入居者の生活空間を綺麗な状態に保つこと。
      ・「清潔」: 先の３つの「S」を保つこと。
      ・「躾」　: 決められたルール・手順を正しく守る習慣をつけること。
   ⑥地域における認知症施策（認知症カフェ、徘徊者捜索模擬訓練、認知症サポーター養成講座等）に積極的に参画します。
   ⑦各委員会活動を活性化し、目標達成に向け全職種が積極的に連携を図り、協力して行動します。
3. 本年度の取組・目標等
   ①社会人、組織人、福祉人として必要な基本姿勢と態度を修得するため、到達目標に対し６か月毎に自己評価および上司による評価を実施し、到達度を検証する。
   ②目標は骨折０件、食中毒・感染症０件、高齢者虐待・身体拘束０件、褥瘡０件、誤嚥性肺炎０件。



介護支援専門員

現在４名のケアマネージャーで104名の入居者様のケアプラン作成、サービス担当者会議の開催等を行っています。日々の介護の業務を通じて、他専門職と連携をしながら利用者様の生活状況や身体機能の変化に応じてアセスメントの見直しやプランの変更等の業務にあたっています。

今後も入居者様おひとりおひとりがその人らしい尊厳のある生活を継続できるよう支援していきたいと思います。

介 護 職 員

利用者様に少しでも楽しく日常生活を送っていただける様、食事介助や日々のレクリエーション、外出行事を通じてコミュニケーションをとらせていただいております。

今後も入居者様目線で物事を考え、おひとりおひとりがより良い生活を送れるよう、取り組んで行きたいと思います。そして、入居者様のたくさんの笑顔が見られるよう明るい職場づくりを目指していきたいと思います。

生活相談員

主な業務としては、入所（定員104名）に関する「検討」・「契約」業務、入所後の介護保険制度に関するサポート、退所時の手続き業務、ショートステイの利用者確保及びそれに伴うベッドコントロール業務、利用料請求業務などがあります。行政との折衝や調査事項への対応も重要な業務の１つです。

特養においては入所基準等の制度変更により、年々入居者の平均要介護度が上昇しています。その様な中、生活相談員としては、新規者検討の際、ご本人の状態だけでなくご家族や周囲の環境等も含めて情報収集を行い、その方がその人らしく安全安心に生活して頂けるかを総合的に検討しています。今後も真に援助が必要と思われる方にご利用頂き、地域福祉への貢献の一役を担えるよう努めて参ります。

求められる職種

介護職員、生活相談員、介護福祉士、
介護支援専門員（ケアマネジャー）、
医師、看護師、
理学療法士、作業療法士、
機能訓練指導員、栄養士、
調理員、事務職員

社会福祉法人　暁会　特別養護老人ホームフェニックスの概要

特別養護老人ホーム フェニックスには、従来型とユニット型の２つの事業所があり、それぞれ介護保険の施設サービス計画に基づいて、入浴・排泄・食事などの介助、充実した日常生活を送るための工夫や、機能訓練、健康管理などを行なっております。

ご家族参加のバスハイクや茶話会等も年２回企画しており、ご家族との「ふれあい」や「つながり」を重視しております。

季節行事や、スタッフの手作りによるイベント、ボランティアの方々との交流などを通して、入居者様が暖かい雰囲気と充実した生活が送れるようスタッフ全員が団結し、がんばっております。

サービス利用対象者は常時介護を必要とし、かつ居宅で介護を受けることが困難な要介護者の方であり、当施設は地域の人々との交流を通じて、開かれた老人福祉施設を目指しています。

毎月２回、生
と習字教室を設
なっており、入
みな真剣な顔つ
心に作品に取
れています

特養養護老人ホーム　フェニックス

機能訓練指導員（ＯＴ）

入居者様・利用者様が、施設においてその人らしく快適な生活がおくられるよう、他の職種と協働してリハビリ実施計画を成しております。

特養で行っているリハビリには個別リハビリと集団リハビリがあります。個別リハビリではストレッチや筋力維持を目的とした運動、手すりや平行棒での歩行練習、日常生活動作の練習等を行っています。集団リハビリでは、身体的側面だけでなく、精神的側面における目的も持って体操やゲーム（連想ゲーム、後出しジャンケン等）を行っています。

それ以外においても機能訓練指導員は、靴や車椅子等の福祉用具の提案・選定や、ベッド周りの環境調整、日常生活動作の指導も行っています。

今年４月から新しい機能訓練指導員が加わっており、入居者様・利用者様が快適な生活をおくるお手伝いができるよう、日々精進しておりますので、今後とも宜しくお願いいたします。

機能訓練指導員（ＰＴ）

現在、ユニット型・特養で機能訓練指導員として入居者様の身体的な機能維持・向上を目的とした個別リハビリテーションを中心に業務を行なっています。

訓練の内容は、歩行練習・起立練習・関節可動域訓練、褥瘡予防のポジショニング、介助方法の指導、集団でのレクリエーションなどです。

ユニット型・特養での専従としての勤務は３年目となりました。難しいと感じる事も多いですが、楽しさも多く感じています。

リハビリをする中でいつも心掛けている事は、リハビリ中はなるべく会話を多くし、楽しい雰囲気で、笑顔で行えるように、ということです。

今後の目標としては、入居者様が健康で100歳を迎えられるように身体的な機能維持・向上と、安全で楽しく過ごせるような環境づくりにも貢献していきたいと思っています。

看護職員

特養における看護職員の役割は、入居者様・利用者様の健康管理です。ほとんどの方が、病気や障害を持ちながら生活されています。私達看護職員は、日頃の状態を把握し体調の異常を早期に発見し、急変時・緊急時にも迅速・適切な対応ができるよう日々努めています。

発語が無く無表情な方が、声掛けすると目で追い表情が緩んだり、長い期間、経口摂取できなかった方が、多職種の援助により経口摂取できる様になられたり等、そばに寄り添い日々看護していく中でたくさんの喜びを感じています。

これからも、その日その日を無事に安楽に安定して過ごして頂けるよう他の職種と協働しながら支援していきたいと思います。

バスハイク

特別養護老人ホーム フェニックス

5月14日（日）フェニックス家族会主催のバスハイクが行われました。当日は夏の日差しをほのかに感じることが出来る最高の行事日和となりました。

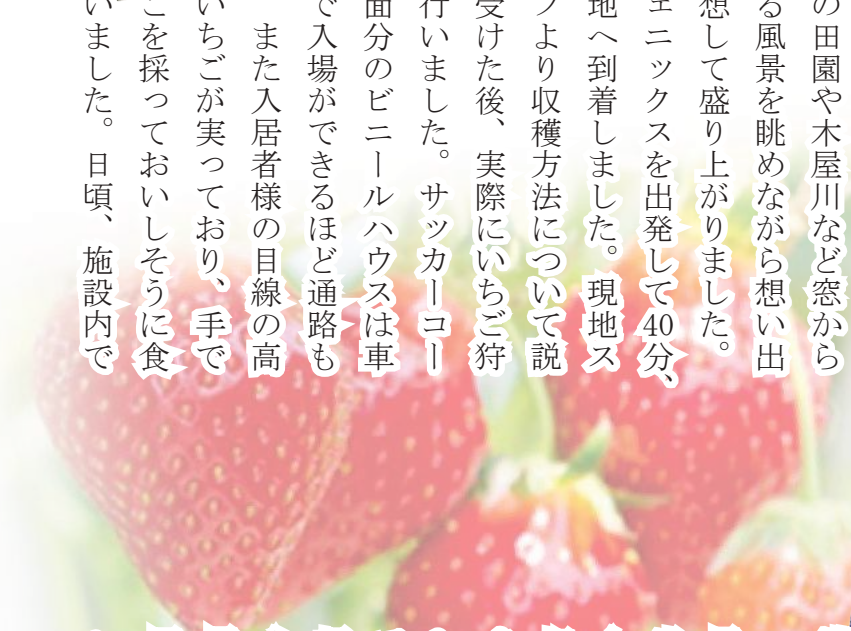
参加者は入居者様11名、ご家族様14名、職員15名の総勢40名となりました。一同はマイクロバス、ハイエース、ミニバンに乗り山陽小野田市埴生にある西日本最大級のいちご農場「花の海」へ向かいました。バスの中では菊川の田園や木屋川など窓から見える風景を眺めながら想い出を回想して盛り上がりました。

フェニックスを出発して40分、目的地へ到着しました。現地スタッフより収穫方法について説明を受けた後、実際にいちご狩りを行いました。サッカーコート3面分のビニールハウスは車椅子で入場ができるほど通路も広く、また入居者様の目線の高さにいちごが実っており、手でいちごを採っておいしそうに食べていました。日頃、施設内では積極的に食事を摂らない入居者様も笑顔で「いちご、おいしい。」と言いながら10粒以上を完食されていました。糖度が高く高品質ないちごを堪能され大変満足されたご様子でした。

昼食は広大な農園が見渡せる屋外テラス席をお借りしてお弁当を皆でいただきました。

食後は隣接した50万本のポピー畑やバラ、シクラメン、ゼラニウムなどの色鮮やかな花を観賞しました。入居者様は自然の中でご家族様と楽しく過ごされ笑顔の絶えない1日となりました。

今後も入居者様の生活がより一層有意義になるように、職員一同お手伝いさせて頂きたいと思います。



菖蒲見学

フェニックス デイサービスセンター

今年も菖蒲の季節になりました。天気にも恵まれ心地よい風が吹く中みなさん車に乗って東行庵に見学に行きました。東行庵に行くと菖蒲の花が咲いており、花の色も様々で、黄色、ピンク、青色とたくさんの花を咲かしており、利用者様も見とれておられました。「たくさん咲いているね」「あそこにも咲いてきれいだね」と言われながら歩いて回られました。

奥の方には鯉が大きな口をあけながら泳いでいました。「鯉もおなかがすいとるんだね」と言われながら池の周りを回られました。駐車場では晋作餅を売っており、焼きたての餅のいい匂いがしました。東行庵を歩いてこられたのでおなかがすいたのか皆さん買われる方が多かったです。「家に帰って食べようか」「嫁や孫にあげよう」と言われて買われました。

帰りの車の中でも菖蒲の余韻が残っており、「本当にきれいだったね」「天気に恵まれてよかったね」と言われ感動していらっしゃいました。去年は雨の日が多く歩くのに足元に気をつけて菖蒲を見ないといけなかったのですが、今年は水曜日を除いて晴れていたので東行庵の中をじっくり見れたのが良かったと思います。

帰って来られたら皆さんすがすがしい顔で疲れた様子もなくデイサービスでゆっくり過ごされて帰宅されました。今年の菖蒲見学は皆さん満きつされた様子で、とても良かったと思います。

特別養護老人ホームフェニックス一の宮（一の宮学園町）では、平成29年4月29日（土）に、平成29年度フェニックス一の宮家族会総会が開催されました。

フェニックス一の宮家族会は、入居者様ご家族の方々のご意見、ご協力をいただき、昨年度発足した会で、今回の総会では会長・副会長の選出のほか、平成28年度事業報告及び決算報告、平成29年度事業計画案及び予算案について話し合われました。

会長・副会長の選出では、出席者からの多数の賛同により、昨年度会長・副会長が今年度も引き続き選ばれました。会則では任期は1年となっていますが、お二方は快く引き受けてくださいました。

平成28年度の事業報告及び決算報告では、敬老会や年末の大掃除、茶話会などの事業報告及び決算報告が承認され、また、平成29年度事業計画案及び予算案については、昨年度の反省や結成から2年目ということで新しい企画、行事を行っていく事で入居者様に喜んでいただけるようにしていく事を確認し、その中で活発な意見交換が行われました。様々な意見が出てきたこともあり、新しく行う行事についての詳細は役員会で改めて話し合う運びとなりました。

『施設との連携を強化し、ともに入居者の暮らしを支え、生活の質の向上を図る活動に協力し、会員相互の理解と親睦を深める事を目的とする。』という本会の目的を果たす為にも施設職員として、ご家族の方々とともに、邁進していきたいと思います。

特別養護老人ホーム　フェニックス一の宮

家族会総会

6月9日（金）フェニックスでは御田植祭があり、田植や野菜の収穫をしました。児童デイサービスの子ども達も帽子や長靴を持参し参加しました。

畑に行くと目の前の野菜や田んぼに興味津々！職員が子ども達を抱いて少しだけ田んぼの中に入ってみましたが、普段怖いもの知らずの子が、怖がって泣いてしまったり、引っ込み思案な子が平気だったりと子ども達の意外な一面を発見できました。

たまねぎやジャガイモの収穫では、自分達の手より大きな野菜が沢山採れて「大っきい！」と目を丸くし両手で一生懸命持って喜んでいました。

ジャガイモ堀りでは、子ども達が採りやすいように職員が熊手で土を掘り上げ、このような道具を見るのも初めての子ども達はじっと見て興味を持っていました。土の中からジャガイモを見つけると袋に「ないないする」と言いながら入れる姿があり、普段の習慣が自然と出来ていました。野菜は持ち帰ってカレーや肉じゃがに変わり「いっぱい食べてくれました」と家族の方からも嬉しそうに話を聞かせていただきました。

初めての場所に行き、沢山の人達に声を掛けられ緊張している姿もありましたが、生まれて初めての野菜を収穫した子もおり、良い体験ができたのではないでしょうか。

お田植祭

児童デイサービスセンター　フェニックス

運動会

障害者支援施設フェニックス

5月31日、障害新館3階におきまして運動会を開催いたしました。

午前中は玉入れとパン食い競争、午後からは借り物競争を行いました。選手宣誓の中にあった「心の底から運動会を楽しみます」という言葉通り、いつもは運動が嫌だという方も、この度は心の底から楽しめたとの事でした。又、いつもは笑顔が中々見られない利用者様も満面の笑顔で取り組まれており、実行委員会としても、大変喜びを感じました。

玉入れ競争では、4チームに分かれて行いました。職員と協力しながら楽しく競い合っており、普段とは違う形でコミュニケーションをとることが出来ました。

パン食い競争では、ひとりひとりが必死にパンを取ろうと大きな口を開け、普段見ることのできない、精いっぱい楽しそうな表情で取り組んでおられました。

借り物競走に至っては職員の方がヒートアップする場面もあり、あくまでも利用者様の運動会ですと意見するほど、利用者様も、職員も一体となり競技は盛り上がりました。

競技の出番ではない時には、大きな声で応援し、ボンボンを振る等してチームを盛り上げてくださいました。

当日はチャレンジデーでもあり、普段以上に精一杯身体を動かし、やり切られたと思います。昨年に負けない、より良い運動会になりました。

来年も、今年に負けないくらい、喜びの絶えない素晴らしい運動会になるよう取り組みたいと、実行委員会をはじめ職員一同、精励したいと思います。

グループホーム　フェニックスの里

ノビリティカフェ参加

グループホームフェニックスの里では、勝山地区のノビリティーホールにて開催される、認知症カフェ（ノビリティカフェ）へ毎月第4木曜日に参加しています。

認知症カフェでは、認知症とはどういう病気かを地域包括の方々がわかりやすい寸劇で説明してくださいました。

その他にも、皆でキヨシのズンドコ節に合わせて体操をしたり、プロの歌手の方を呼ばれて歌を披露してくださったり、琴の生演奏を聞かせていただいたりと楽しいイベントが盛りだくさん!!　また、ビンゴゲームなどのゲームも実施されています。

カフェには勝山地区の地域の方々もたくさん参加されています。フェニックスの里の利用者様も「楽しかった、また連れて行ってね」と、とても笑顔で喜ばれていました。

次回の認知症カフェはカラオケ大会を開催されるそうです。皆さん心より楽しみにされています。

初夏の候、生活介護事業所フェニックスでは6月5日～6月23日の間、門司港レトロに外出をしました。総勢約40名の利用者様の参加となり、企画当初は梅雨入りが予想され天候が不安だったのですが、外出期間は全く雨も降らず快晴続きで初夏の外出を満喫できました。

門司港レトロでは、食事を食べたり門司港レトロ内を散策したりと有意義な時間を過ごすことができました。施設内では食事摂取量が少ない方や偏食気味の方も、違う環境の中での食事ということもあり普段では見ることのできない食欲ぶりでした。食事後は、景色を見ながら風に当たる人、自分のカメラで風景を撮影する人、お土産を購入する人、アイスクリームを美味しそうに食べる人など様々な時間を過ごされて、皆さん目をキラキラと輝かせて楽しまれておられました。

快晴であったため、強い日差しの中での外出となり疲労感も見受けられましたが、帰り際の車中で「また来年も行こうね」「今度はどこにお出かけするの？」というたくさんの声を聞き、来てよかったと心から思いました。

今後も利用者様の期待に応えられるように、安全で楽しんで頂ける企画を立案して気分転換を図りたいと思います。

生活介護事業所フェニックス

外出行事：門司港レトロ

生け花・お茶会

宝の家

平成29年6月19日（月）に月一回の行事として生け花・お茶会を行いました。切り花を用意して、スポンジにご利用者が思い思いに花をさしていきます。長さの調整は職員が行いました。ご利用者のセンスの素晴らしさに職員皆、感心させられました。ご利用者の個性が出ており皆違う綺麗な生け花が完成しました。

その後、花を見ながらのお茶会です。ご自分が作成した生け花を見ながら抹茶と饅頭を頂き、皆さんとても満足されておりました。生け花と一緒に記念撮影を行い、行事は終了しました。ご利用者が作成した生け花は皆さんに持って帰っていただきました。

今後もご利用者が喜ばれる行事を考えていきたいと思います。